

令和 8 年度 尾瀬高校コミュニティ・スクール(CS)構想 概要

～ 出会う。気づく。動く。尾瀬から世界へ ～

尾瀬高校は、群馬県教育委員会の指針である「生徒のエージェンシー(主体性)の発揮」を受け、地域と学校が対等なパートナーとして未来を創り続ける「地域密着型」の学校を目指します。

1. コミュニティ・スクール(CS)とは？ → 「学校と地域が、ひとつのチームになる仕組み」です。

これまで学校は、先生たちが中心となって運営してきました。しかし、子どもたちが生きていくこれからの社会は、正解のない問いに溢れています。そこで、学校と地域(保護者や住民の皆さん)がパートナーとなり、「どんな子どもに育てほしいか」「地域をどう良くしていくか」を一緒に考え、力を合わせて学校づくりを行う仕組み、それがコミュニティ・スクールです。

<わかりやすい 3 つのポイント>

○「学校運営協議会」がある学校

学校の中に、地域の方や保護者などで構成される「学校運営協議会」が設置されます。この会議では、校長が示す学校経営方針を承認するほか、生徒の学びや地域の課題について意見交換を行い、地域としてどのような支援ができるかを話し合います。

○ 関わり方は「義務」ではなく、自ら楽しむ「自分事」へ

子どもたちの成長を見守り地域の未来を共に描くパートナーとして、学校と目標を共有します。大人の情熱が、生徒たちの学びを動かす一番の原動力になります。

学校：地域の力を借りて、教科書だけでは学べない生きた教育ができる。

地域：学校を核として、多世代が交流し、地域づくりにつなげることができる。

○「社会に開かれた教育課程」の実現

学校の門を地域に開放し、地域の大人たちが「伴走者」として生徒の成長を見守り、共に歩みます。

尾瀬高校においては、地域の方々が生徒にとって最高の理解者となり、「地域の困りごと」を「自分から見つける学びの種」へと変えていけるような、生徒が自ら一歩を踏み出す場を大切に育んでいきます。

2. 尾瀬高校コミュニティ・スクール構想、学校と地域の共通目標・ビジョン

本構想は、学校運営方針である「地域・保護者・生徒から信頼される学校」を実現するための体系です。

- (1)全体テーマ:「出会う。気づく。動く。尾瀬から世界へ」
- (2)共通目標・ビジョン:「多くの出会いから多角的視点を養い、影響を与える人を育てる。」
- (3)学校運営協議会の活動テーマ:「学びの質向上と地域活性化」
- (4)重点資質:職員研修での課題に基づき、特に「生徒の多角的視野」の向上に注力します。

3. 具体的な活動と取組

- (1)『教え、教わり、共に学ぶ』学校教育支援活動
地域住民や専門家の知見を授業に取り入れ、対話を通じて学習効果を最大化します。
- (2)『地域貢献にチャレンジする』地域学校協働活動
地域の困りごとを生徒が「自分事」として捉え、解決に向けた協働活動を実践します。

4. 組織の役割と関係性づくり

従来の「お願いする・される」関係から、互いのニーズを満たし合う「共創関係」を大切にします。

- (1)学校運営協議会
学校運営方針に賛同し、地域のリソースを活かした「尾瀬高ならではの学び」を、皆さんと一緒に企画・検討する場です。
- (2)地域学校協働本部
実際に支援・協力する個人や団体の地域ネットワークです。尾瀬高校活性化委員会から助言をいただくこともできます。
「K!ZUKU!CS 係」の教職員、及び「地域協働活動推進員(地域コーディネーター)」が地域と生徒を繋

ぎます。

(3)協力体制

単なる「動員(形式的参加)」を脱却し、生徒が主体となり大人が協力する「真の共創」を目指します。

5. 期待される成果

①生徒の「生きる力」

自己肯定感を高め、先生以外の「カッコいい大人」との出会いを通じて将来の視野を広げます。

②地域の「元気」

若者の熱意に触れることで住民の「学び直し」や生きがいにつながります。

③学校の「オープン化」

地域全体で生徒を育てる体制を構築し、学校と地域の協働関係を促進します。

6. それぞれの関わり方と大切にしたい姿勢

大人は教える立場だけでなく、生徒の「やりたい」を面白がり、横に並んで一緒に歩む最大の協力者であり続けます。そして、関係するだれもが「サポーター」であり、「プレイヤー」です。

役 割	大切にしたい姿勢	具体的な行動
学校職員	つなぎ役	地域の声を丁寧に聴き、生徒の「好き」や挑戦を社会の課題と結びつけるきっかけを作ります。
地域の方	成長を見守る最大の協力者	生徒の熱意に横並びで寄り添い、「安全に失敗できる場」として地域を提供し、共に楽しみます。
生徒	学びの冒険家	自分の関心から出発し、活動を通じて「世の中を良くしたい」という探究心を育みます。

まとめ

学校は生徒だけのものではなく、地域みなさんが主役となって集い、共に学び合える場所です。生徒たちの「なぜ？」という純粋な疑問や「やってみたい！」という情熱は、私たちが当たり前だと思っていた地元の資源を「地域の宝物」へと再発見させてくれる原動力になります。形式的なお付き合いではなく、生徒と大人がワクワクしながら手を取り合い、横に並んで歩いていく。その先に、誰もが「この町にいてよかった」と心から思える幸せな未来(ウェルビーイング)と、いつまでも続く豊かな地域社会をつくっていくこと。これこそが、尾瀬高校コミュニティ・スクールが目指す、新しい学校と地域のカタチです。